

令和3年度第1回平泉町総合教育会議

日時：令和3年7月27日（火）

午後1時30分

場所：平泉町役場2階201会議室

次 第

- 1 開 会
- 2 挨拶 平泉町長
- 3 出席者紹介
- 4 協 議
 - (1) G I G A スクール構想の推進について
 - (2) その他
- 5 閉 会

令和3年度第1回平泉町総合教育会議出席者名簿

(敬称略)

区分	職 名	氏 名
構 成 員	平泉町長	青 木 幸 保
	平泉町教育委員会教育長	岩 淵 実
	平泉町教育委員会教育長職務代理者	本 澤 京 子
	平泉町教育委員会委員	山 平 功 二
	平泉町教育委員会委員	三 浦 英 子
	平泉町教育委員会委員	千 葉 義 信
学 校	平泉町立平泉中学校長	小田島 達 哉
事 務 局	教育委員会事務局教育次長	岩 淵 嘉 之
	教育委員会事務局教育次長補佐	千 葉 数 馬
	教育委員会事務局指導主事	岩 淵 拓 史
	教育委員会事務局主任主査	穂 積 貴 史

令和3年度第1回平泉町総合教育会議会議録

日時：令和3年7月27日（火）

午後1時30分

場所：平泉町役場2階201会議室

（岩淵教育次長）

皆様、本日はご多用のところご出席くださいます、ありがとうございます。

只今から令和3年度第1回平泉町総合教育会議を開会いたします。はじめに青木平泉町長がご挨拶申し上げます。

（青木幸保町長）

大変ご苦勞様でございます。皆様方には、日頃から本町の教育に大変ご尽力をいただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。本年、第1回目の総合教育会議ということになりますが、従来の総合教育会議では、まさしく町長部局、教育委員会が差し迫る、差し迫っている様々な教育の課題にそれぞれ捉えながらそれを共通理解しながら即教育現場に反映し、より良い平泉学の推進に結び付けていこうという、そういった取り組みの中で開催させていただいているところであります。

今回のコロナ対策の関係で特にギガスクール構想が即対応するようなそういう状況に、国の政策もあります。しかし、現場は、そういったことを活用しながらいかに平泉学、町として平泉学、このギガスクール構想を取り入れながらどういったかたちが最もふさわしいかという部分も総合会議ではお話をいただきながら、私はそういう話をしたいですが、皆さんが学びながら、共有しながら進めていくというのがやはり大事なところだという風に思っております。私自身が今日ここにタブレット、喋るのも、何て喋ったらいいかわからないですが、我が人生の中でこれに向き合うなどということは想像したこともございませんでした。しかしながら、現実はそのとおりです。そういったことも、自分自身もしっかり捉えながら、尚且つこれからの更なる若い世代に、これを上手く活用しながら新たな教育という部分をですね、考えていきたいという風に思っています。特に、どういった時代が来ようとも、今、平泉は平泉学を軸としながら教育を振興させていただいているところでありますので、そういったことも更にテーマにしながら、皆さんとともに進めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたしたいという風に思います。議論を深めながら子どもたち一人ひとりに個別、最適化された学びの表現に向けてしっかり取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたしたいと思っております。

台風の行方も大変心配されるところであります。今夜から明日ということになります。登校時刻、子どもたちが登校する時間帯にも上陸する、そういう状態になるなか、そういった意味では教育委員会も町の方もちょっと心配されるところでありますけれども、いずれそういう場面が往来してもしっかりと対応して参りますので皆様方のご指導も賜りたいと思

います。本日もどうぞよろしくお願いいたしますし、今後ともよろしくお願いいたします。

(岩淵教育次長)

それでは皆様お手元の次第に基づき進行して参りますけれども、次の3、出席者紹介ですけれども、本日は、青木町長、岩淵教育長、教育委員の皆様のほか、学校現場の状況をお伺いするために平泉中学校の小田島達哉校長先生にご出席いただいておりますのでご紹介いたします。

(小田島平泉中学校長)

よろしくお願いいたします。

(教育委員)

よろしくお願いいたします。

(岩淵教育次長)

それでは本日、皆様、よろしくお願いいたします。

4の協議ですけれども、本日の会議は、議長が岩淵教育長になっております。それでは進行をよろしくお願いいたします。

(岩淵教育長)

それでは座ったまま失礼します。議長と言うと何か決定するような感じですが、司会者というような役割ですので、そのように受け止めていただければと思います。今日は、1時間半の中でということです。それでかなり内容的には3校話し合いをするものもあるのですが、時間が短いですので能書きはやめてですね、早速本題に入っていきたいと思いません。現在、皆さんにタブレットが一台ずつ委員の皆さんにもお渡しをしているわけですが、これは平泉中学校の先生方が使っているタブレットをお借りしております。このタブレットが先生方、それから児童生徒一人一台という風なことで配付されているというようなものになります。聞きますと、平泉中学校ではこのタブレットを使って会議等はペーパーレスで行うかたちを進めてきていると、そういう時代になるのだなということも感じられるところでもあります。今日の会議の流れですが、まず最初にこれまでの導入までの経過、そして4月以降どのようなかたちで先生方の研修が進められてきているか、子どもたちがどの程度まで触ってきているのか。それが1点目です。

2点目は、タブレット使用のガイドライン、つまり子どもたちとの約束、オンライン等であれば家庭に持ち帰ることもあるわけですが、家庭の保護者の方に考えていただきたい約束事というのが2点目です。

3点目は、タブレットの機能についてインストール済みのアプリケーション、ソフト、どんなものが入っていて、どのような活用をするものになるのか。

4点目は、中学校の校長先生が来ていますので、学校での活用事例、こんな風に今のところ使い始めていますという、或いは将来的にこういう風な展開を考えているということもご紹介いただければと思います。

最後に、今後、必要となるアプリケーション検討ということで、どのようなものを盛り込んでいくか、この中に入れていくのか、そして学習に活かしていくのかという風なことに

いて伺います。

この5点について、それぞれ一つ一つの項目で説明等が分かれている、いろいろご意見等をご質問等があればと思います。何せ初めてのことですので、堪能な方もいらっしゃると思いますけれども、今回の総合教育会議は我々の学習も含めてという風なことでの会にしたと思いますのでよろしくお願いいたします。

それではまず、事務局からこれまでの経過、そしてこれまでどのような研修等を進めてきたかについて報告をお願いします。

(穂積主任主査)

担当の教育委員会事務局の穂積です。よろしくお願いいたします。座って説明をさせていただきます。まず、ギガスクール構想のおさらいについてですけれども、ギガスクール構想はインターネットを活用して児童生徒と教職員、家庭を繋ぐ学習環境の構築を目指すことを目的とされていきました。当初、国の計画で、令和5年度までの5か年で全国の小中学校に一人一台のタブレットなど、端末を配備する計画としたのですが、新型コロナウイルスの影響で休校が続いたことで急遽、経済対策を計上しまして、令和2年度中に全国で端末を整備完了できるように目標を大幅に前倒ししたところです。こちらを受けて平泉町での一人一台端末を実現しています。研修等の経緯ですけれども、令和3年に入りまして2月上旬に教職員向けの教育情報セキュリティ研修を行っています。3月上旬、中旬に校内LAN整備、全学校の校内LAN整備と児童生徒への一人一台のタブレットの配付を完了しております。

4月下旬には教職員向けのタブレット、iPadの操作研修を行いました。また、6月上旬に教職員向けのタブレットの主要アプリケーションの掲示を行っております。6月中旬以降に授業のタブレットの活用が始まりまして平泉中学校では早速本格的な授業を始めているところです。これまでの経緯については以上になります。

(岩淵教育長)

項目立てて報告いただきましたけれども、これまでの経緯、それからこれまでの研修等について、内容的には具体的ではなかったですけども、何かご質問ないでしょうか？こういうことについて聞いてみたい、どんな研修だったとか、そういったことについてあればお話しただきたいと思います。

(千葉委員)

今の中学校の話がありましたが、小学校のことについても、今の状態をお聞かせいただきたいのですが。

(穂積主任主査)

小学校の方では設定が終わりましてこれから順次、本格的に使用を始めて参ります。

(千葉委員)

教職員の研修については、小学校、中学校一緒にやったということですか？

(穂積主任主査)

小学校、中学校、それぞれ行っております。

(岩淵教育長)

よろしいですか？これから研修する予定については何かあれば付け足したお話あれば頂きたいのですが。

(穂積主任主査)

これからの研修の予定ですけれども、平泉中学校の方で、今度 30 日、こちらの iPad にインストールされているロイロノートスクールというものの研修会を修紅高校の先生を講師に迎えて研修会を行う予定になっております。そちらが小学校、中学校の先生方の参加して分かりやすい研修を受けることになっていきます。また、Q B プレゼンや E リポートというものが入っているのですがこちらの研修の方もメーカーを通じてこれから行っていく予定になっております。

(岩淵教育長)

そのなんたらという今話があったのですが、ちょっと私には分からない言葉だったので、どういう中身ですか？

(穂積主任主査)

この説明を、資料をもって説明をする予定であります。先に。

(岩淵教育長)

いいです。後から、その時にお願いしたいと思います。

それから、もう一つ、先日教職員一斉研修で ICT 指導員による研修もあったと思いますが、そのことについては後で触れますか？

(岩淵指導主事)

指導主事の岩淵です。お世話になっております。先日、小、中学校の終業式の日午後の一斉研修会ということで、先生たちにホットな話題をとということで、一関市教育委員会の ICT 指導員をされている鈴木先生をお招きして、ギガスクール構想に関わっての講演をいただきました。実際の扱い方の部分から情報モラルの部分、あとはそれを学校生活どうように送っていくかというところまで話をさせていただきました。以上です。

(岩淵教育長)

ありがとうございました。

ICT 指導員の鈴木先生については、一関市で昨年度から指導員として活躍していらっしゃるのですが、今年度は平泉町にも指導員として来ていただくという風になりました。その第一弾として、一斉研修で、全教職員集めたところでご指導いただいたことでもあります。

その他にこれまでの経緯、研修等についてご質問ございませんか？よろしいでしょうか？

(教育委員)

はい。

(岩淵教育長)

それでは、2 番目のタブレット使用のガイドライン、子ども向け、そして保護者向けと云うことになるでしょうか、そのことについて説明をお願いします。

(穂積主任主査)

資料については名簿の次に綴られている資料になります。こちら6月上旬に各校に通知を出したのになりますけれども、児童生徒タブレット利用ルール、みんなで守る3つの約束と10のルールをご覧ください。まず、児童生徒に守ってもらいたいものとして3つの約束、1、私は勉強のためだけに使います。2、私は健康に気を付けて時間を守って使います。3、私は人が嫌がったり悲しんだりする使い方をしません。という約束を示しています。

また、10のルールとしまして、1、決められた場所や時間以外ではタブレットは使わない。2、タブレットを他の人に使わせない。3、インターネットで見てはいけないページや危ないページを見てしまったら、すぐに消して先生に報告する。4、シールをはがさない。落書きはしない。壊れるようなことはしない。5、インターネットやアプリケーションで自分や他の人のことは絶対に書き込まない。6、人を傷つけたり、困らせたりするようなカメラの使い方はしない。他の人を勝手に写真に撮らない。7、タブレットを無くしたり、壊したり、動きがおかしいと思った時はすぐに先生に知らせる。8、勉強に使うデータだけタブレットに保存する。9、他の人の作品を勝手に保存しない。写真に載らない。10、3つの約束と10のルールや先生に言われたことなどは守れない場合は、タブレットを使うことができなくなるんだよということを示しています。また、次のページですが、こちら教職員に対してのタブレット運用情報のお願いになります。1、児童・生徒がタブレットを利用ルール、先ほどのものですが、みんなで守る3つの約束と10のルールを守るように指導をお願いします、としています。そのルールの下の方、2番目ですけれども下の方、授業などで積極的に使わせてください。3、教材などアプリケーションのインストールについては教育委員会事務局が行います。必要なアプリケーションがある場合は教育委員会に相談してください。4、タブレットの本体やカバーが破損した際は教育委員会に連絡してください。5、充電はできるだけ毎日行うようにしてください。という風な通知を行っています。学校ごとにあとは、こちらを回収、直したりしながら使っていただくようお願いをしています。以上になります。

(岩淵教育長)

ガイドラインという風なことで、特にも守ってもらいたいルールと云う風なかたちのもので、教育委員会としては学校にお願いし、それぞれ小学校、中学校版、学校では工夫していただいて、これに沿ったかたちで利用上のルールを決めて、徹底するということになります。今、児童生徒ルールとそれから教職員へのお願いということで、2つのプリントでお示ししたわけですが、何かこの件について、ご質問等あればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。どこからでもいいです。

(本澤委員)

質問ということではないですが、ちょっと気になることとか、こういう本当に大事な、大切な子どもたちには是非守らせたいルールなんですけど、結局、今の現実の家庭とか、世の中が、例えば、写真、カメラ、全く相手の意思を関係なくパチパチ撮られちゃいますよね。それが現実というか。そういう今の世の中があるなかで本当にこのルールをどうやって守ら

せていくか、このルールを守るための更に一歩手前の、例えば、これを判断するためには、これ守らなければって、児童が判断するためにはその一歩手前の児童の心の状態、これ駄目だっていう決断するその力というのをどうやって身に付けさせていくかが本当に大変なことだなと思います。本当に簡単なことではないなど、それは是非、学校現場でどうやっていったらいいか私たちも一緒に日々考えて行かなきゃなと思います。私が体験したことでスクールガードやっているのですが、子ども帰ってきて迎えに出てバスから降りて一緒に歩いて行くと黙って私の洋服のポケットに手を入れてスマホを出しちゃうんですね、子どもたちが、いきなり撮られちゃうんです。写真を。「ちょっと待って。おばちゃん、今写真撮っていいって言ったかしら？」って言ったんですが、そのことの注意自体もぼかんとしているんですね。通用しない。撮って当たり前だという、相手が何て言おうとも。承諾があるか無いか関わらず。そういう体験をしましたことがありまして、これは由々しき大変な問題だなということを感じたことがありました。以上です。

(岩淵教育長)

その件について事務局の方で何か考えていることがあればお話いただきたいです。

(岩淵教育次長)

今のお話というのは、所謂モラルというか、社会的な常識というかそういったことですから、情報メディアの扱い方というの、その中の一つですということですから、その辺は学校現場の方だけではなくて、そういう家庭でのそう云うしつけだったり、家庭でのいろんな場面で教える機会があると思いますから、そういったことでそういう扱い、写真を無断で撮ってはいけないとか、肖像権であったりとか、そういう個人のプライバシーの問題だったりとか、そういったことと併せて勉強する機会を捉えながら、家庭なり学校なりと一緒に教えて行くことが必要だなと考えておりますし、そのための情報の提供をそれぞれ家庭へ向けてとか、学校を通じて、そういったところで一緒になって進めていくことになろうかと思えます。

(岩淵教育長)

小田島校長先生、現場感覚で心配されることがあると思いますが、お話いただければと思います。

(小田島平泉中学校長)

ありがとうございます。今出されているのは比較的学校で利用する場合というのが主ですが、これは、現実1学期使っていますがあまり大きな問題はなく、勝手に学校内で写真撮ったりもしないで、OKなんですけれども、問題は持ち帰るという時になった場合は更に親御さん向けも含めて、ルールを増やさないといけないなと思っていますし、ちょっと話は変わるのですけれど、このタブレット関係なしで先日、学校便りで配付したのですけれども、本校でもスマホ、ゲーム、ネット関係のルールを作っている家庭は半分です。生徒のアンケートでは半分です。決めていないという、本当は決めていても本人が分かっていないのかもしれませんが、決めていないというご家庭向けに、決めているお家ではこういう風なルールを決めていますよと。基本的には、だいたいはやることやってからとか、宿題やって

からとか、時間は1時間以内とか、中には水曜日、金曜日、土曜日だけとか限定するような。なかには布団を上げている人はできるとか、家の手伝いをしている人はできるとか、そういう細かいものあたりしたのですが、そういう例を出して、他のお家ではこうやって決めていますよというのを例として出して、是非、ルールを決めてくださいという、そっちはPTAも含めて、PTAも動いているのですけれども、日曜日の9時以降はとやっているのですけれども、そっちにちょっとPTAとか親御さんの協力が無いと本人だけではちょっとやっぱり難しいかなと思うので、持ち帰りがスタートするようになったら、まだ先だと思うのですけれども、ちょっとそこはPTAも含めて親御さんの協力を強くお願いしてやらなければならないなというところはあるかなと思います。

(岩淵教育長)

ありがとうございました。家庭での使用、持ち帰りということについては、まだ校内での使用ということも、これからスタートするという具体的にはそういう状況でありますので、例えば、来年度からとか、いう風なちょっと先が長い話だと思いますので、そういった中でいろいろ不安材料があることについては、手立てを組み合わせながらということになるかと思えます。その他にこのルールについて何かお話お願いしたいと思えます。

(千葉委員)

中学生は中学生なりに、小学生は小学生なりの受け取り方があるが故に、それぞれの学校で噛み砕いてなり、もっと説明するというお話だったのですけれども、私としては、なぜだめなのかっていう勉強会なり、説明会なりが必要なんじゃないのかなという風に思うんです。本当に低学年の方であれば「こうですよ。」と言われればそのままいくかもしれませんけれども、小学校の話ですれば中学年から高学年になると「何でだめなの」という疑問が必ずもってくると思うんですよ。そうすると、最終的には見つからなければいいでしょうという話になってしまいますので、なので、やっぱりなぜだめなの、これはなぜしてだめなのというところをちょっと噛み砕いて説明してあげることが必要なんじゃないかなと思いますので、そういうところ考えて、今後小学生が使うようになった場合にはやっていただきたいなと思います。

(岩淵教育長)

一つの提言というかたちで受け止めたいと思えます。これからの大きな課題になるかと思えます。その他に、何か気になること、或いは心配されるようなことありましたらお話いただきたいです。よろしいですか？

(岩淵教育長)

それでは、戻ることがあるかと思いますが先に進ませていただきます。3番目のタブレットの機能、インストール済みのアプリケーションの説明等に入っていきたいと思えます。これから実際に、タブレットを使いながらというかたちになるかと思えますので、補助の者が付きますのでよろしく願いいたします。では、説明の方を先にお願いいたします。

(穂積主任主査)

では、早速お手元にあるiPadの方を触っていただきたいと思えます。

(岩淵教育長)

触るってどうするんですか？ということからいかないと、進まない。

(穂積主任主査)

まず、画面が立ち上がっているような状況でしょうか。それでは、お手元の iPad の画面の方、右上の方から下にスッと下ろすような作業です。それで下がってきた部分のカメラマッブがありますけれども、こちらをポチッと押してもらっていいですか。そうするとこれで iPad を使って写真が撮れます。勉強のために使う写真を撮ったり、同じ画面で動画を撮影することができるようになります。

(青木町長)

動画の時はどうするの？

(穂積主任主査)

動画の時は、右下の方に選べる場所があって、ここで写真とビデオと選べるようになっています。これで動画が撮れたり、写真を撮れたりして、授業で使えるようになっていきます。

(岩淵教育長)

傍聴の方々もどうぞ。一緒に。

(穂積主任主査)

右側の丸い白い丸ポツを押してもらってもいいでしょうか。そうするとデスクトップに戻っていきます。先ほどと、今度同じ操作ですけれども、右上の方からまたシュッと、画面の端から下の方に下してもらおうと出てくるんですけれども、一番左下の四角いマークをポチッと押しingたいです。一番左下。お手元に資料で QR コード、四角いぐちゃぐちゃって云うものを置いたのですけれども、iPad のカメラが後ろにあるので、QR コードを後ろに持って行ってみてください。そうすると平泉町のホームページが開いてあると思います。このように QR コードを読んで、例えば先生がここを見せたいよと云う URL がある場合にはこちらを見せてすぐ進んで行くことができますというものになります。

(岩淵教育長)

今の教科書は、教科書の所々に QR コードがあって、それでやると、例えば書写の筆順とかそういったのが動画が出てくる。そういう活用の仕方できる。

(穂積主任主査)

では、今度はこちらにインストールされているアプリケーションの説明に入りたいと思います。まず、主要アプリケーションになりますけれども、全国でも導入がされているロイロノートについて説明動画で説明したいと思います。よろしくお願ひします。

【動画説明】

(穂積主任主査)

こちらがロイロノートスクールといまして、先ほど平泉中学校 30 日に研修があるよと言ったものの学習ソフトになります。では、あともう一つアプリケーションどんなのか見てもらいたいですが、今度はチームズの方、補助員の方、チームズをポチッと押しingたい

てよろしいでしょうか。皆様、入ったようですね。こちら将来のオンライン学習などで活用可能なアプリケーションになります。学校と家庭で双方向の授業ができたりするものですが、そちら行く前にまずは学校の方で体育館と教室の間でオンライン集会を行ってみるなど、今後テストをしながら、みんなで先生も児童生徒の慣れて行こうというのを予定で立てております。チームズについては以上です。

次にですね、アプリケーション、最初に後で説明をしますという話をしたものについてですが、資料の最後のホチキス止めをしている資料をご覧くださいませでしょうか。こちら、まず普通教室の各教科についての説明をさせていただきます。まず、このiPadについてデジタル教科書の方が見えるようになっていまして、こちら先生用のデジタル教科書になるのですが、学習において指導者用デジタル教科書、教材にある挿絵や写真、資料等を大きく掲示できるようなものになっています。次のロイロノートですね。こちら今、説明があったのですが、児童生徒が学習内容の発表をする際にタブレット端末の録音機能を使って自分の発表を録音して繰り返し確認したりすることができます。その他、様々な可能性は無限大のアプリケーションとなっています。そして、その他諸々と話をしたアプリケーションなんですけれども、Q Bプレゼンというものが入っています。こちらはですね、児童生徒が自分でストーリー立てして、考えをまとめてプレゼンを簡単に組み立てられるようなアプリケーションになります。また、Eレポートコンプというのですが、こちらはレポートやリーフレット、パンフレットなどを本当に簡単に操作して作成できるのがアプリケーションになります。一番最初の表の最後ですが、Eポルボックスというのですが、こちらは学習において思考をそれ以上に整理して理解を深めることができるアプリケーション、思考ツールとよく言われるんですけれども、こちらのようなアプリケーションが入っています。今後、この下の3つの分についてメーカーの方から研修を受けられる予定となっています。iPadの機能については以上になります。

(岩淵教育長)

インストール済みのアプリケーションの説明ということで、今、ロイロノートの画面上に見ましたし、チームズについてはここにいる全員の顔がそれぞれということでオンラインになっても、こういう風なかたちで双方向の情報交換ができるかたちになります。何かこのソフトについてお聞きしたいことがあればお願いします。

(山平委員)

iPadに今入っているアプリケーションということで説明受けましたけど、私ども企業に勤めているとアプリケーションというよりは、例えば、パワーポイントだったりエクセルだったりそういったものが一般的に今使われているのですが、そういった兼ね合いのところの説明も以後、何かあるのでしょうか？今後、こういったものが普及してくる可能性があると思うんですけども、まだこことはリンクしていないんじゃないかなと思うんですけども。

(穂積主任主査)

オフィス関係のものが使えるかどうかということですか？

(山平委員)

使えるかというよりは、一般的には、まだ企業では、オフィス関係が多いと思うのですけれども、学校ではまだこういうのを使っているんだという意識といたしますか、そういった考え方の違いといたしますか、ソフトの違いなんですけれども。

(穂積主任主査)

まず、この iPad 上でもオフィス 365A 1 というものを導入してしまっていて、各児童生徒、先生もですけどもオフィス製品を使えるようにはなっています。ウェブ上のインストールされているものではなくて、ウェブ上に見にいくものなのですがワード、エクセルなど、そちらを見せる機会があれば見せて、将来はこんな風に使っていくんだよという授業もできると思います。いかがでしょうか？

(岩淵教育次長)

おそらくお伺いしたいのは、子どもたちがそれらのソフトを使って学んで、将来的にソフトがどういう風にリンクしているかということも含めてだと思えるんですけれども。

(山平委員)

こっちに慣れてしまうと思うんですね。

(岩淵教育次長)

これはやっぱり一斉授業なのでそれに特化したかたちで理解を深めたり、一斉にやった時に先生が集計作業とかそれぞれの考えが一斉にパッと見て分かるようにということでの特化したソフトだと思いますし、今、お話があったマイクロソフトなどのあれはビジネス用のソフトですので、いずれ両方とも学ぶ機会はあると思いますから、それが必ずしもリンクしない、繋がっていかないということではないと思いますし、これから、そういう学校でデジタル化で、学んだものが活かせるように社会全体もデジタル化されていくんだろうなという風に思っております。

(岩淵教育長)

小田島校長先生、今の件について何か。

(小田島平泉中学校長)

実は私、技術科なので、今までも、エクセル、ワード、パワーポイントの時、技術の教科書資料に載っているだけで、それを授業の中で扱わなきゃいけないというわけではなくて、けど、使った方がいいなという先生の判断で実習をちょっと何時間か入れているので、はっきり言って中学校とかでそれを教えなきゃいけないのですけれども。高校に行って情報科ではやりますし、あと就職が目の前になるとよりやっとなないと、ということでよりやるんですけれども。私、ちょっと話が長くなるのですけども、ロイロノートは、思考ツールということで一斉授業のなかでやるソフトなんですけれども、岩手県の教育委員会がこれを進めています。「学びの改革プロジェクト」というものがあって、昨年度から来年度までの3年間かけて一戸小、中学校と飯岡小、中学校と盛岡三高、花巻北高校、水沢高校で先進的にやっているんですけれども、そこではまずロイロを授業の中で活用していくのを先進的にやっています。ただ、間違っほしくないのは、それだけで授業するのではなくて授業の中の道具の

一個です。分度器みたいなものとか、コンパスみたいなもので、今まで例えば、ホワイトボードに意見を書き合って、それを黒板に6つ、班ごとに貼ってというのがこれでできますよという、その程度のあるまで道具なので、これだけあれば授業しますということではないので。黒板とチョークと教科書あって、作っていた授業がベースとなってそこにちょっと便利な道具が1個増えたというような程度なので。話戻りますけど、エクセル、ワード、パワーポイント、これを使っただけの授業は他に多分、今までどおり技術科の授業の中で2年生、3年生の時間で実習で入れて、さっくりとこういうのがあって世の中でこれが使われているよと詳しくは高校に行ってもっとやるからね、という感じでは教えているので、そこで繋がっていくのかなとは思っていました。

(岩淵教育長)

その他に。

(三浦委員)

これから授業の中での道具ということでこれを使われていく。子どもたちは本当に早く覚えるので、使い出したら自分なりに工夫して使っていくとは思いますが、その前に使用方の指導というのはやっぱり技術家庭で行うのでしょうか？

(小田島平泉中学校長)

取りあえず本校では1学期、道具を入れていただいて準備もして、さあ使えるぞとなつてからは、技術の授業で、まず最初に、あと時間割が上手くいかない時は、学年の集会のホールでというかたちでなりますが、どうしても得意、不得意の先生がいるので、技術科中心のかたちでは進めています。本来は教育課程の中に総合的学習の中とかにスキル学習として1時間、2時間入れた方がいいかなというのが来年度以降になるかなと思っていました。

(三浦委員)

そうするとスキルとしての学びは何時間くらいなるのですか？

(小田島平泉中学校長)

ロイロノートに関しては、各教科の授業で使いながらの中で、生徒は覚え、先生もなんですけれども、生徒は覚えていくので、意外と簡単ですので、生徒に関しては。そんなにまるまる50分で何時間もやらなきゃいけないというのはないかなと思っております。

(岩淵教育長)

その他にいかがでしょうか。

(山平委員)

今、校長先生から話があったのですが、先生のスキルの差は、どのような感じに見えるか教えていただけますか？

(小田島平泉中学校長)

実はですね、ロイロノートさんの方でテキストも自由にダウンロードできるようになっていまして、本校ではそれをマス刷りして渡して、1年の先生から空き時間にいじって見てくださいということでスタートしました。今週は今週末やるので。ただ、やはり便利さはすぐ分かるので、例えば3学年は修学旅行のしおりの資料をもう配付してこれで回収して、普通

だと紙を渡して手書きして、もしくはパソコン室でパソコンで打って、それを印刷するというのが、もうこれで回収しているというかたちでやったりしてしまっていて、まだ全部の教科の先生が授業で使っているわけではないですが、興味ある先生は音楽科とか授業を組み立てて、実際には2学期からがメインになるかなど。あとは私もアンケート機能があるので、生徒アンケートを今まで紙でやっていたものを正しい正しいで集計していたものが、これだと集計が勝手にしてくれるので、非常に便利にという部分はありました。正直、まだ先生方のスキルの格差があるので、それを講習会ではやりながら、どんどん授業で使っていた先生にどんどん聞いていくというような様子は職員室では見られます。得意な先生に、「これどうするの?」と聞きながら、じゃ自分もやってみようかなどというので、思ったより個人的な考えですが、思ったよりは前寄りだなと思います。毛嫌いしているような先生はいないなという部分はあります。

(岩淵教育長)

ありがとうございました。その他にいかがでしょうか。

(千葉委員)

チームズの活用についてなんですけれども、一堂に会さないというところが、今、特に言われておりますので、全校朝会等、学年集会等、体育館に集合せずというところでやっていただけるといいのではないかなど。ただ、月曜日の朝、一番で準備してというのは大変なのかもしれないですけれども、どこかの時点で一堂に会する機会を減らすという風なことを踏まえて、ちょっと考えていただいて、その辺で使い足していただければという風に思います。

(岩淵教育長)

ありがとうございました。

次の活用事例のところでは校長先生からこういう風に使っていますと。まだ、家への持ち帰りは先の話ですけれども、理想的にはスタートの段階では、例えば夏休みに持ち帰って夏休みに、さっきのチームズで同級生の顔が出てきて先生と元気か?という風なやり取りができるかですね、そんなところから始められればいいのかと思います。その前段では学級の中でみんなで開いて実際に人がいるんだけれども、そこに皆集まっていないという風な感じでお互いにやり取りして慣れていくということも必要かなど。やっていけばいいのかなという風に思います。その他に、いかがでしょうか。

それでは活用編の方でいろいろ学びたいと思いますので、次に活用事例等ということで小田島校長の方から平泉中学校の実践、或いは前任校の実践もあると思いますからお話いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

(小田島平泉中学校長)

よろしく申し上げます。

ダブルようなんですけれども、主にロイロノートに関してになりますが、県教委の方で進めていますので、それに沿ってやりたいなと思っているのですが、配付したり回収したりというのが、そのとおり便利にできるので、取りあえずまだ活用していませんが、活用としてでき

るのが道徳の授業で、今まではプリントに書いてもらって机間巡視して、もしくはホワイトボードに小さいのに班ごとに相談をして、掲示するというのが、全部誰が何を書いているのかが一覧で分かるので、先生としては机間巡視してもいいのですけれども、それで集めることができました。どうしても机間巡視しても発表したくない、発表したくないというのは恥ずかしくて発表しないということで見せない子もいたりするのですが、これ使うと普段あまり発表しないけれども、非常にいい考えを持っている子を吸い上げて、こういう考えを持っている子がいるよ。名前を出したり、出さなかったりできるので、そういうかたちで真っ先に道徳等では活用はできるなどは前任校から分かっています、ちょっとずつそこを進めたいなと思っておりました。

あとは先程も言ったようにあくまで一つの道具なので、これで全て授業がこれだけでやるということではないので、例えば、私の技術と社会やっていたのですが、社会をやっていた時は資料をスキャンして、それを提示して見せたりしてたのですが、そののちらだと簡単にできます。なので、生徒とのやり取りも便利なんですけど、先生が教材研究して授業で見せたい資料が簡単にできるというのは、こっちサイドからいくと働き方改革で、教科書も変わりましたので、今、授業を組み直しているのですけれども、その上でもちょっと時間はかからなくてすむのかなというのが一つの利点かなと思っていました。すべての授業で実技教科だとカメラ機能、動画機能で撮って、それをお互いに比較して、どうすればもっと上手くいくんだろうみたいなこともできますし、本校では、まだ3年生の修学旅行の資料づくりだったり、あとは音楽科でもたくさん使っていますけれども、資料を配付して回収したりというのはやっていますし、先ほど言ったとおり、生徒アンケート、全戸アンケートもこちらを使うと一気に集計ができると。それを生徒会執行部に、生徒会もアンケートを取るの、これを使ってやってもいいんだよという風なかたちにしております。あとは、チームズの方ですけど、コロナでなくても冬の体育館は寒いので、よく体育館で暖房を焚いて15分の集会はちょっと無駄だなというので寒い中でやったり、やらなかったりするのですが、基本的には各教室で冬の集会はできるかなと。あとこのチームズを使ってこのコロナ禍なので、生徒総会を体育館ではなく各教室でやって、双方で、先ほどのようにクラスが全部写っていて質問あるところはそこだけ大きくなって質問してということでのかたちでの生徒総会をオンラインでやっている学校もあるようなので、そういう活用の仕方あるかなと思います。ただ、光と影じゃないですけども、影の部分では、もし持ち帰らせた場合にチャット機能もあるので繋がっちゃいます、生徒が。そうなった時に歯止めが利かなくなるので、この間も一関の鈴木先生の話でも、先生方はどんどん先生機で入っているのですけれども、先生機にはチームズを入れて会議の効率化とか、そうやって生徒の集会を効率的にとかというのはいいんだけど、チームズのアカウントを入れて生徒にポンと渡すのはちょっとブレーキかけていた方がいいというのはアドバイスいただいて、本校もやろうと思ったんですが今はストップかけていまして、ただですね、また便利さのところていくと、今度、修学旅行8月末に行くんですが、このタブレットを持って行けば携帯電話をレンタルしなくてもネットにも繋がるし、その電話機能があるので、これで生徒との連絡が取れる。班一台ですけ

ども、それを今度活用したいなど、やれるかどうか夏休み中にやるんですけれども、そういうかたちでの活用、ただそれ終わったらまた切って、生徒には、まだお家に持って行くということではなくて。私、個人的にはどんなに早くても3学期、もしくは来年度からかなと、家に持ち帰るのは。様々なそういうルールづくりもあるし、生徒への指導もありますし、何よりも親御さんの理解もありますので、例えば家に持ち帰るとなると、学校に持ってきて授業で使うためには家で充電することになるので、家で毎日フル充電してから持ってきてくださいということにもなるので、それも親御さんがOKなのかどうかとか、そういう部分もあります。あとはネットの利用ですね。どう制限をかけていくかということもあるので、県内様々なところで進んで、徐々に始まっていくと思うので、結構なトラブルが出ると思いますので、それを見ながらでいいのではないかなと。持ち帰りに関しては何も進んでやることはなく、学校の授業で使うのはどんどん進んでやっていいと思うのですけれども、持ち帰りはちょっと慎重に。コロナが入ってくればですけれども、今の状態であればオンラインは必要ないと思うので、そういうかたちでとにかく今は学校でどんどん使いましょうというかたちになると思います。で、最後にこれが入ってきた要因の一つには、例えば話し言葉でこうしてください、ああしてくださいという耳から情報が入ってそれを理解できること、それに凄い苦手感、困り感があってそこでつまづいている子が結構います。そういう耳からだけの情報では厳しい子にとっては、こういうのは凄い助かるツールなので、そういう子たちへの対応とか、あとこの後、多分、今後必要なアプリケーション、学習ドリル系のが入ってきますので、そうするとつまづいている子、あとは逆に授業よりも先に進みたい子のそれぞれの学習のソフトが入っていけば、より効果的に個々に応じた分はできるのではないかなと思っております。あとすみません、ロイロで抜けていましたが、持ち帰りの宿題なんですけれども、宿題もロイロノートで、先生方にとっては今まで作っていたプリントの資料もPDFにするとすぐにぺたって貼りつけて配付できるので、そこは便利かなと思っていました。ただ、宿題は手で書かないでタブレットでやるのかということそうではなくて、修紅さんに教わったのですけれども、修紅さんではロイロで配布したものを拡大して百均などで売っているそうなんですけれども、タブレット用のペンがあるのでそれで全部筆、書かせているんです。入力ではなくて英語も数学も全部書きなさいと。書いてそれを提出しなさい。だから書かなくなることはないということをやっているということで、そうなってくるとイヤホンだったり、マイクだったりペンだったりが必要になってくるのですが、それはこの後の必要なものというかたちになってくるかなという風に思います。ちょっと活用事例ではないんですけれども、これからの部分も含めてこういう活用が予測というか、目指していることになります。もし、もっと詳しくという部分があればお答えしたいなと思いますのでよろしく願いいたします。

(岩淵教育長)

ありがとうございました。今、平泉中学校で行っていること、これから考えていくことについてお話いただきました。何か、もう少し詳しく聞きたいということがあればお願いしたいのですがいかがでしょうか。よろしいですか？まだ少し時間があるのですが。

(千葉委員)

すみません、校長先生、チームズは生徒用には入っていないということですか？

(小田島平泉中学校校長)

入ってはいるんですけれども、まだアカウント入れて使えるようには、まだしていません。

(千葉委員)

実は私、仕事は、全社会議はチームズでやっているのですけれども、実は私のパソコンにはチームズが入ってなくて、ウェブで招待メールがきた状態で入力する。それをクリックするとその会議に参加できるということで通知は行くんですけれども、マイクが入っていれば聞こえますけれども、という風なやり方なのでアカウントを入力する必要がない。そういうやり方も一つあれば、参加している人と発信元のところにしか行かないことになるので、そんな感じでもちょっと使い方の一つで、もしかしたらその可能性があるかなという風に思います。

(岩淵教育長)

ありがとうございました。その他に、いかがでしょうか。

(三浦委員)

こう云う機器に関しては、初めの方、私もそうなんです、なかなか覚えにくいというか理解にすごく時間がかかるのですけれども、子どもたちの中にも個人差があると思うので普通の学校の勉強でも個人差があり、そしてこういう機器の活用でも個人差がまた拡大されなければいいと思うので、なかなかついていけないような子どもたちへの個人的な支援をしていただければなと思います、なかなか時間的にそういうのは難しいかなと思ったりしながら、走り出せば学校の方でもそれなりに時間を見つけながら補充等をして行くと思いますが、最初はなかなか取り組みというのも、すごく好きな子どもたちもいますので、そういう子たちは率先して次から次へと自分でやっていくと思うんですが、なかなかできない子も多いと思いますので支援をよろしくお願いいたします。

(岩淵教育長)

ありがとうございました。その他に、いかがでしょうか。よろしいですか？

それでは最後ですが、今後必要となるアプリケーション検討ということで事務局からお願いします。

(穂積主任主査)

今後の必要なアプリケーションですけれども、先ほど校長先生からもお話がありましたが、学習系のドリルソフト、こちらが有用であると考えています。例えば、家に持ち帰り学習が始まった際に持ち帰って、持ち帰る目的なんですけれども、ただ持ち帰って遊ぶために使うのではなくて、持ち帰った際に使えるようなドリルのアプリケーションを今後は入れていきたいと考えています。県内でもかなりの市町村でドリルソフトの導入が進んでいますので、平泉町でも検討を進めたいと考えています。また、中学校ですけれども、各教室で映し出せるような大型のモニターが各教室にはないために、今後、モニターになるのか、もしくはプロジェクターになるのか、そちらの導入を検討していく必要があると考えています。あと

は先程、お話がありましたけれども、タブレットで使えるような、タブレット用のペンであったり、あとはイヤホンであったり、こういった小物についても準備を進めて行きたいと考えているところです。以上です。

(山平委員)

文科省のスタディXのメールマガジンというのを拝見しているんですけど、文科省の方ではCBTシステム、MEXCBT(メクビット)というものを試してみませんかという風に投げかけているのですけれども、これはオンラインでテスト等ができる学びの保証なし、学習システムというものみたいですが、こういったものの検討と云うのはどうなんでしょうか？

(穂積主任主査)

そちらの方も検討していく必要があると考えていますけれども、詳しくはまずは勉強していきたいと考えています。

(岩淵教育長)

その他に、これは入れた方がいいんじゃないかとか。それではよろしいでしょうか？

それでは、これまで5項目について、いろいろご意見いただいたのですが、もう一回全体を通して言い忘れていたこと、或いはこのことについてもう少し聞いておきたいということがあれば、どの面からでも構いませんけれども、お話いただきたいと思いますが、いかがでしょうか？

(千葉委員)

教材という風な考えではなくて、今後、お聞きすると、中学校さんが先に始まっているようなかんじだと思うのですけれども、小学校も同じように始まった時に教材だけではなくて、人的なもの、いわゆるサポーターなり、補助員なり、そういうところを1週間に何日か各クラスにとかです、そういうところで、やる人がいなくなればそれはそれでなんです、そういうところをとということになると予算的なことも考えて行かなければならないということもなるかと思しますので、ちょっとその辺の検討について考えて行っていただければと思います。

(岩淵教育長)

次長さん。

(岩淵教育次長)

そうですね。いろんな国が示しているような事業の枠組みというか、スキームというか、そういうものがあるわけですが、平泉でもできればそういうICTの活用能力があるような方を雇用して、その方を学校に派遣できるような体制が、と云うようなことを考えているところですが、先ほどお話があったように予算が伴うということですね、当面は職員が学校に出向いて行くということがありますが、それはあくまでも技術的な話で、問題なのはICT指導員がいますけれども、どういう風に教えるか、ICTの技術等教えるスキルというのを合体させたかたちで教職員をサポートしていくということだと思いますから、その辺は学校の方の声を伺いながら、予算に反映していくように人材の確保も含めて、

今後、検討して参りたいと思います。

(岩淵教育長)

よろしいでしょうか？その他にいかがでしょうか。

それでは、操作という面では少し物足りない部分もあったかと思いますが、いずれ子どもたちが、この iPad を使って学習が進められていくという風に思います。これからもできるだけサポート体制をしっかりと取りながら、充実したものにしていきたいと思います。ただ、個人的な考えですが、小学校1年生から中学校3年生まで、一人一台なんですけど、入学したての1年生にいったいどうやって使うのか。使えないだろうと。例えば、ロイロノートやチームズという話はあるんですけど、という風なことを考えると、この間の鈴木指導員の研修の中で最後に、小学校1年生の段階からという、キーボードをどう打てるようになるか、ブラインドタッチとって、いわゆる見ないでやるのが理想なわけですが、そういった辺りで、タイピングゲームというのがあるんだそうです。今、ちょっと出してもらいますので、そういったところから子どもたちが iPad を使いながら勉強していくという、その辺りからスタートすることなのかなという風なことがあるようにお話を伺いました。

出してみます。平仮名の初級でこういう画面が出ると、ローマ字入力じゃなくて日本語入力、かな入力です。それでやって、「かべ」と打てると次が出てくる。「さしみ」と出てくる。一定の時間内で何個これクリアできるかと。これが平仮名の初級から、それから片仮名、足し算、引き算、そんなのも出てくるようです。こんなところから、使っていくのが正に入学したての初歩の初歩なのかなという風に思います。当然のことながらそういう子たちが家に持ち帰ってというのはなかなか考えにくいところでもあります。これも毎日、10分とか、5分とかということでやっていく中で徐々に慣れていくと。ただ、かな入力ですので、3年生からはローマ字勉強します。今度はローマ字入力に切り替わってというところが出てくるわけですが、そんなようなことからなるかなという風に思ったりしていました。

授業で先生がこのロイロノート使うとかいう風な時にですね、例えば、私だと今、どこのボタンを押せば何ができるのか、そんなところから右往左往するわけですが、例えば、小学校の初歩的な部分がまず30人なら30人、20人なら20人の子どもたちがちゃんと画面が出て、やるのが分かって、それで下手すると1時間終わってしまうかもしれないという風な心配だった。それ授業ではない、授業以前の段階で終わってしまう、いう風なことです。非常に便利なものですが、それに縛られるというか、振り回されて先生たちがヘトヘトになるということが考えられる。その使い方というのは十分考えなきゃないですし、先生たちもそのための事前の準備とか大変な労力がかかるという風なことも考え併せて拙速に、すぐ全部いろんなことやらなきゃならないと、この機能もある、このソフトも使うという風なことだけで、右往左往しては本末転倒になるかなという風に思ったりしているところです。何せ、3年間かけてというのが、いきなり4月にどーんと全国一斉に、全児童生徒になりましたので、先生たちの構えも研修もまだまだ部分あるわけですので、そういう意味では時間かけてという風なことでやっていく必要があるかなとそんな風に思っているところでもあります。ちょっと後ろ向きな話になってしまいましたが、これが現実だと思ってい

ますので焦らずに、慌てずという風なことで少しずつ、少しずつという風に伸ばしていく必要があるのかなと思います。

町長さんの発言がなかったですが、最後に一言お願いします。

(青木町長)

先程の前段の挨拶の中にもお話させていただきましたが、いずれ町長部局と教育委員会が共通理解をしながら、即現場に対応していく、正にそれが平泉学を進めるキーポイントの一つになっていると、そういうお話をさせていただきましたが、その中で先ほどからの話の中で予算がという話がありました。今までもですが、共通理解さえすれば予算は大丈夫ですから。ただ、私自身がもう一緒に共通理解する私の努力が必要だなということをつくづく今日は感じさせていただいたところであります。私からは以上です。

(岩淵教育長)

大変、心強い話をいただきましたけれども、大いに期待していきたいと思います。それでは、司会をお返しします。

(岩淵教育次長)

ありがとうございました。今、いろいろなご意見などを頂戴しましたけれども、いずれ情報格差、デジタルデバイドという言葉があるわけですが、教える側、教わる側も人ですからそういう先生方のサポートも、子どもたちのサポートもそういう環境を整えながら、今まで皆さんのご意見を活用しながら、学校の現場の声を聞きながら教育委員会としての整備を整えながら取り組んで参りたいと思います。

本日は貴重なご意見ありがとうございました。以上を持ちまして、第1回平泉町総合会議を閉会いたします。